

AO 法骨折治療 [英語版 Web 付録付] 第 3 版

田中 正 ● 日本語版総編集
澤口 毅 ● 日本語版編集代表

〔評者〕 帖佐悦男 (宮崎大教授・整形外科)

骨折は、小児から高齢者まで全ての年代にわたる疾患で、整形外科医や外傷学を志す医師にとって最初に遭遇する分野であり、また最も奥行きのある分野の一つです。超高齢社会を迎え、脆弱性骨折をはじめ骨折治療のニーズはますます高まり、さらに子どもの運動器の健康が損なわれ、以前は経験することがなかった骨折に遭遇することもあります。

◆AO 法との出会い

1993 年にスイス (ベルン大: Reinhold Ganz 教授) に留学している際、ダボスの AO コースへの参加、AO 法の理論や limited contact dynamic compression plate (LC-DCP) の研究などを見学する機会がありました。そのとき骨折治療における生物学的治癒過程 (骨膜性血行の重要性) と生体力学をはじめ骨折治療に関する新たな考え方を目の当たりにして、まさに「目からうろこが落ちる」経験をしました。このことは私にとって新鮮な気持ちで骨折治療の基本を学習でき、その後の臨床にも生かすことができています。

◆進化する AO 法

AO 理論の集大成 (gold standard legacy) である『AO Principles of Fracture Management』の初版が 2000 年、2007 年に第 2 版が発刊され、その後も AO の骨折治療の考え方・手術法は進化を続けています。その代表が、locking plate、MIO (minimally invasive osteosynthesis) であり、骨折治療における軟部組織の重要性が強調されています。また、骨折手術におけるアプローチ法や手術時期、放射線被曝や脆弱性骨折などが議論さ

れ、それらをまとめた第 3 版が 2017 年に発刊されました。待ちに待った日本語版として今回の本書が発刊されています。

◆本書をなぜ手に取ってほしいのか

全般をとおして、大変理解しやすいイラスト、画像や写真が多用され、これまでのオンライン教育に加え、QR コードが表記され簡単に動画などを視聴でき、読者は理解を深めやすくなっています。

構成は、以前と同様の Principles, Specific fractures, Appendix からなっており、第 1 章の AO の哲学と基礎では、AO のビジョン、使命、構造が明確化され、最も基本となる AO の当初の原則と確立された現在の原則が記載されています。また、インプラントとバイオテクノロジーの項が集約化され、インプラントの感染感受性について解説されています。骨折の分類に関しては、分類が術中の情報収集が完了してから完成することや改訂プロセスが明記され Comprehensive Classification of Fractures (CCF) の原則に基づき AO/OTA 分類も簡素化されています。複雑 (complex) と多骨片 (multifragmentary) は、混乱を招いたことから多骨片に統一されました。軟部組織の分類も大変理解しやすくなっています。

第 2 章の治療方針と計画は、これまで以上に術前計画と治療方針の重要性や手術時期について各論とリンクさせ説明されています。

第 3 章の整復、進入法、固定手技は、大幅に改訂され、手術進入路と術中における軟部組織の取り扱いの重要性が強調され、骨折治療に革命をもたらした locking plate を用いて、MIPO



やスクリューのハイブリッド使用など十分な術前計画の基に実施することで最善の骨折治療が行えると述べています。

第 4 章では、超高齢社会となり多くの脆弱性骨折に遭遇することから老年整形外科ケアを含め多くの誌面が割かれています。

第 6 章の部位別治療では、それぞれの部位が刷新され、増加の一途をたどり治療に難渋する人工関節周囲骨折や時に遭遇する膝関節脱臼が別項として、詳細に記載されています。

◆最後に

約 2 年間という短期間に大幅に改訂された英語版をわかりやすく翻訳された日本語版総編集者の田中正先生をはじめ担当者の方々に、敬意を表すとともに御礼申し上げます。

本書は、外傷学を志したり専門にされている全ての医師にとって、運動器外傷の病態・治療に関し基本から最新の知識を習得するための最良の書ですので、日常診療の傍らに置かれ、読者の皆さまの臨床に即役立つものと確信します。

A4・1016 頁 2020 年 5 月
定価：本体 40,000 円＋税
ISBN978-4-260-03943-7
医学書院 刊